

【平成 30（2018）年度】

動物実験部会 自己点検評価

報告者 山田 一哉

1) 年度当初の目標<P>

従来通り、動物実験の審査を適切に行うこととした。

2) 目標の実施状況<D>

本年度、動物実験部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて3名が参加した。

動物実験等に関して優れた識見を有する者 山田 一哉、河野 史倫、澤柿 教淳、川島 均

倫理等の学識経験を有する者 福島 智子

実験動物に関して優れた識見を有する者 実験動物管理者 塚田 晃子

a) 動物実験審査について

本年度分と次年度分を含めて下記の6件の申請を審査した。

受付番号 第18-06号（新規）

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 木藤伸夫教授

研究課題：不飽和脂肪酸の寿命への影響を、キイロショウジョウバエのインスリン受容体変異体を用いて調べる。

研究目的：不飽和脂肪酸を餌に加えるとキイロショウジョウバエの寿命が極端に短くなることを明らかにしたが、この寿命の変化にインスリンシグナルが関与しているか調べる。

動物実験実施者名：健康科学研究科 教授 木藤伸夫

実験実施期間：承認後～平成31年3月

使用動物：遺伝子組換えショウジョウバエ（雄・雌）交配し常時100匹を越えない

受付番号 第19-01号（継続変更あり）

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田 一哉教授

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、羽石歩美助手、塚田晃子助手、他に院生1名、学部生15名

実験実施期間：2019年4月1日～2020年3月31日

使用動物：ラット（雄）50匹 マウス（雄）60匹

受付番号 第19-02号（継続変更なし）

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 山田 一哉教授

研究課題：生化学実験（健康栄養学科2年生後期）

研究目的：絶食時および高炭水化物食摂取後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、羽石歩美助手、塚田晃子助手

実験実施期間：2019年9月～2020年1月

使用動物：ラット（雄）15匹

受付番号 第19-03号（継続変更あり）

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 高木 勝広教授

研究課題：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する

動物実験実施者名：健康栄養学科 近藤史貴、塩島なつみ、藤原昌伍、古屋友梨奈、宮澤愛佳、他に学部生7名

実験実施期間：2019年4月1日～2020年3月31日

使用動物：ラット（雄）50匹 マウス（雄）40匹

受付番号 第19-04号（継続変更あり）

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 河野 史倫准教授

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム解明

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影響を与えるのか追求する。また、それらの変化を裏付けるヒスト

ン修飾変化を明らかにするため、遺伝子ノックアウトやノックダウン、  
薬剤を適宜組み合わせることで検討を行う。

動物実験実施者名：健康科学研究科 増澤諒、吉江俊浩、大沢育未、金野遼太  
朗、内山茉南他に学部生 6 名

実験実施期間：承認後～2020 年 3 月

使用動物：ラット（雄）24 匹

マウス（雄）108 匹

受付番号 第 19-05 号（継続変更あり）

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 木藤 伸夫教授

研究課題：不飽和脂肪酸の寿命への影響を、キイロショウジョウバエのインス  
リン情報伝達系変異体を用いて調べる

研究目的：不飽和脂肪酸を餌に加えるとキイロショウジョウバエの寿命が極端  
に短くなることを明らかにしたが、この寿命の変化にインスリンシグ  
ナル伝達経路が関与しているか調べる。

動物実験実施者名：健康科学研究科 教授 木藤伸夫

実験実施期間：承認後～2020 年 3 月

使用動物：キイロショウジョウバエ 100 匹

b) 公私立大学実験動物施設協議会総会・研修会への参加

平成 30 年 6 月 1 日に開催された公私立大学実験動物施設協議会総会に山田一  
哉教授と塚田晃子助手が参加した。

c) 動物実験に関する情報開示等

最新の規程・自己点検評価・実験動物の飼育数・教育訓練参加者数・動物実  
験部会委員構成、承認された計画数をホームページ上で公開した。

e) 教育訓練

下記の日程で教育訓練を実施した。

平成 30 年 8 月 3 日 教育訓練（教職員・院生向け） 参加者 9 名

平成 30 年 10 月 2 日 教育訓練（学生向け） 参加者 71 名

f) その他

例年学内で行われている動物慰霊祭を、平成 30 年 5 月 23 日に挙行了。河野史倫准教授が、実験動物に対する慰霊の言葉をのべた。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

a) 動物実験計画について

すべての実験計画について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、異議なく承認した。審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。本年度の実験に用いた動物数は、ラット 36 匹、マウス 430 匹であった。

4) 次年度に向けて＜A＞

次年度も、動物実験をより適正に実施できる体制を維持していくことが重要である。